

大分大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー：CP)

<教育課程の編成と教育内容>

社会や保健・医療・福祉の変化を見据え、看護の質向上を実現できる実践力を養い、看護実践・看護管理・看護教育の場でリーダーシップを発揮できる高度専門職業人の養成を行うために、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、以下の方針で教育課程を編成し・実施する。

1. 看護研究コースは、変動する社会の要請に応え得る質の高い看護活動（個人・集団への看護実践とその管理ならびに看護教育）を創造し、改革するための諸理論と方法を修得するためのカリキュラムを編成・実施する。
2. 専門看護師コースは、日本看護系大学協議会が定める高度実践看護師教育課程基準（専門看護師 38 単位）に則り、専門看護師としての高度実践能力を培うためのカリキュラムを編成・実施する。
3. 両コースの共通必修科目は、看護現象を科学的かつ倫理的に探究するために基盤となる科目を配置する。
4. 共通選択科目は、学生自身が持つ看護活動上の課題について探究できるよう多彩な選択授業科目を編成する。
5. 専門コース科目は、健康科学、看護管理・教育、看護実践、がん看護、クリティカルケア看護、老年看護等の専門分野における高度な知識や技術、実践を修得できるような科目で構成する。
6. 特別研究科目は、共通必修科目、共通選択科目、専門コース科目を基盤に、学生自身が持つ看護活動上の課題や関心から研究へと展開する研究遂行能力を培うために、指導教員のもとで研究過程を学ぶ体制を整える。

<教育方法>

1. すべての科目は、学生による発表・討議を中心に行う。また、学術論文や専門書等の文献検討、自身の看護活動の言語化・概念化を繰り返し行い、知的探究力を養う。
2. 学生個々の背景（基礎教育や看護活動経験等）の多様性・特徴を理解した上で、学問的、科学的探究の本質と方法について個別的に教育・指導を行う。
3. 修士論文指導においては、担当教員による個別指導が基本であるが、論文提出から公開審査までの間、審査委員会による教育的な予備審査をとおして修士論文の洗練化を指導する。
4. 社会人の就学と仕事の両立を可能にするため、長期履修制度や昼夜開講制を適用し、学生が計画的に履修できるよう教育・指導を行う。

<学修成果の評価>

1. 毎年度、学生対象に教育評価調査と教員による授業科目の教育評価を行い、「大学院看

「看護学専攻教育評価」としてまとめ公表する。

- 1) 学生対象の調査は、学修目標の到達度や授業科目の学修評価、教育全体の評価で構成する。学生にとっては、自己の学修成果と課題を評価する機会となる。
 - 2) 教員は、担当する授業科目の実施状況と評価を記述し、次年度以降の教育改善に活かす。
2. 修士論文に関する学修成果は、研究倫理審査や修士論文研究計画検討会、公開審査における学生の発表内容や質疑応答の状況により評価する。公開審査後、看護学専攻部会において各修士論文の審査内容を共有し指導評価を行う。

学修成果の評価は、アセスメント・チェックリストにより実施する。

大分大学 アセスメント・チェックリスト

学部・研究科	医学系研究科	学科・専攻・課程	修士課程看護学専攻	コース		最終更新日	2020年10月9日
--------	--------	----------	-----------	-----	--	-------	------------

ディプロマ・ポリシー							
1	看護実践・看護管理・看護教育の分野において自主的に研究課題を立て、その課題の探究に必要な基礎的研究能力を形成することができる。						
2	専門領域の理論と実践に関する豊富な知識と高度な技術を習得し、幅広い視野からの柔軟な問題対応に必要な態度を身につけることができる。						
3	保健・医療・福祉の専門職との連携において、看護専門職として主体的行動ができ、コーディネーターとして問題解決の調整に優れた能力を発揮することができる。						
4	地域社会の健康問題の解決に看護職として率先して取り組み、多様化・国際化した看護活動の必要性をふまえ、看護支援方法の研究・開発を展開し、学術的な成果として社会に還元することができる。						
5							
6							

番号	実施状況	手法	名称	実施時期	実施頻度	対象	チェック内容・項目	対応 DP						評価者	実施責任者	結果の活用方法			
								1	2	3	4	5	6						
1	実施中	成績判定資料	年間学年別単位取得報告	3月	毎年	全院生	各年度で開講した科目の単位取得状況	●	●	●					●	看護学専攻教員	・指導教員 ・学務課大学院係	院生の成績評価を一覧にまとめ、個別指導の情報とする。	
2	実施中	修士論文評価資料	修士論文冊子	3月	毎年	修了予定者	修士論文	●					●			看護学専攻教員	・指導教員	院生が修士論文として認められた論文冊子を審査委員会委員や指導教員等に配布し、院生の研究能力の修得状況をとらえる。	
3	実施中	修士論文評価資料	学位論文審査結果等報告書	2月	毎年	学位論文審査対象者	学位論文審査結果の要旨、最終試験の要旨	●					●			審査委員会委員	・審査委員会委員 ・修士課程小委員会 ・研究科委員会	学位論文審査委員会が、修士論文に値する内容であるかを判定した報告書であり、院生の研究能力の修得状況をとらえる。	
4	実施中	修士論文評価資料	修士論文審査の評価表	2月	毎年	学位論文審査対象者	修士論文の倫理的配慮、研究過程、論文の独創性・限界と将来展望・論文体裁に関する総合評価	●					●			審査委員会委員	・審査委員会委員 ・修士課程小委員会 ・研究科委員会	学位論文審査委員会が、修士論文の研究過程と成果について、評価を行い、院生の研究能力の修得状況をとらえる。評点は、学生表彰者や学位記伝達式総代の選考に利用する。	
5	実施中	質問紙	院生による教育評価調査	2月～3月	毎年	全院生	学修目標の達成度、授業科目の学修評価、特別研究科目の学修評価、大学院教育の全体評価	●	●	●	●					●	全院生	看護学専攻部会 教育担当	調査結果を報告書としてまとめ、4月専攻部会で報告する。その後、院生にもフィードバックする。本報告書は、次項に記す「大学院看護学専攻教育評価」に組み込み、学内限定で公開する。
6	実施中	教育評価報告	教員による授業評価	2月～4月	毎年	看護学専攻教員	授業のねらい、実施状況、評価	●	●	●	●					●	看護学専攻教員 (科目責任者)	看護学専攻部会 教育担当	毎年度、「大学院看護学専攻教育評価」としてまとめ、看護学科/看護学専攻ホームページ上で学内限定公開。冊子体は、看護学専攻教員、医学系研究科長、修士課程小委員会委員長に配布し、教員間で情報共有するとともに、カリキュラム全体の教育について学内外に説明する資料として活用する。
7	実施中	修士論文研究計画資料	修士論文研究計画検討会	年2回(10月、2月)	毎年	全院生	修士論文研究計画	●					●			看護学専攻教員	看護学専攻部会 教育担当	院生の研究能力育成の一環で、年2回、カリキュラム外で、修士論文の研究計画について発表と意見交換を行う。研究計画検討をオープンにすることで、院生の研究過程を共有し、指導に活かす。	
8	実施中	テスト	臨床研究倫理セミナー小テスト	年1回	毎年	全院生	研究倫理に関するテスト	●					●			医学部附属病院総合臨床研究センター	医学部附属病院総合臨床研究センター	医学部倫理委員会において研究計画の審査を申請するには、本セミナーの受講が必須である。院生も受講し、テストを受けることで研究倫理に関する理解度を自己評価する機会となる。	
9	実施中	研究倫理審査	医学部倫理委員会	毎月	毎年	全院生	修士論文研究計画書の倫理審査	●					●			医学部倫理委員会	医学部倫理委員会	院生が取り組む研究は、医学部倫理委員会の審査・承認を得て実施される。倫理審査の判定結果は、院生が取り組もうとする研究の倫理的配慮や科学的合理性についての評価でもあり、研究指導に活用する。	

大分大学大学院医学系研究科博士課程教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

＜教育課程の編成と教育内容＞

「患者本位の最良の医療」に立脚した人間形成を基盤として医の倫理を体得し、高度な医学知識の修得を目標とした教育を実践する。医科学および生命科学領域において、高度な知識および科学的・論理的思考に基づき、独創性・創造性に優れた研究を遂行し、国際的にも活躍できる自立した研究者、および各診療分野で優れた臨床研究能力と先端的で高度な医療技能を備え、高い倫理観と研究心を持った臨床医を育成するために、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、以下の方針で教育課程を編成し・実施する。

1. 「基礎研究領域」は、多様化する基礎医学の高度な知識および科学的・論理的思考に基づいた研究遂行能力と高度医療に関する先端的・専門的な臨床研究を遂行できる能力が培われるための諸理論と方法を修得するためのカリキュラムを編成・実施する。組織病理学、分枝神経学、微生物感染免疫学等の科目で構成する。
2. 「臨床研究領域」は、臓器別系統的学問体系の高度な知識および科学的・論理的思考に基づいた研究遂行能力と高度医療に関する先端的・専門的な臨床研究を遂行できる能力が培われるためのカリキュラムを編成・実施する。消化器内視鏡学、臨床心臓病学、外科臨床診断学等の科目で構成する。
3. 「がん研究領域」は、癌研究領域に特化した基礎・臨床融合型の網羅的カリキュラムを編成・実施する。がん分子標的薬開発学、がん放射線治療学、臨床腫瘍治療学等の科目で構成する。
4. 「理学療法研究領域」は、理学療法関連領域に特化したカリキュラムを編成・実施する。理学療法基礎科学、神経・運動器関連理学療法学等の科目で構成する。
5. 「共通科目」は、医学現象を科学的かつ倫理的に探究するために基盤となる科目を配置する。共通科目は、学生自身が持つ実践上の課題について探究できるよう多彩な選択授業科目を編成する。研究推進実践論、生命倫理学、医学情報システム学等の科目で構成する。

＜教育方法＞

1. すべての科目は、学生による発表・討議ならびに教員による講義を中心に行う。また、学術論文や専門書等の文献検討、概念化を繰り返し行い、知的探究力を養う。国際化を見据え、講義・発表を積極的に英語で行う。
2. 学生個々の多様性・特徴(基礎教育や臨床経験など)を理解した上で、学問的、科学的探究の本質と方法について個別的に教育・指導を行う。
3. 大学院生ごとに1人の指導教員を置き、さらに副指導教員を置くことで複数指導教員制を選択できる指導体制とする。博士論文指導は、担当教員による個別指導が基本であるが、研究室で検討会による教育的な検討をとおして博士論文の洗練化を指導する。士論文は権威ある欧文誌に採択されたものが条件であり、この過程を通して研究成果

公表に要求される全てを習得する。

4. 社会人の就学と仕事の両立を可能にするため、長期履修制度や昼夜開講制を適用し、学生が計画的・弾力的に履修できるよう教育・指導を行う。

<学修成果の評価>

1. 3年次修了前後に、大学院生による公開の研究発表会を義務付け、研究の進捗状況を発表し、参加教員からの意見やアドバイスを受けて研究の取りまとめに資する。
2. 毎年度、学生対象に研究指導計画書を作成し進捗状況と学修目標の到達度評価これに基づいた研究計画修正を行う。

教員は、担当する授業科目の実施状況进行评估し、次年度以降の教育改善に活かす。

3. 博士論文に関する学修成果は、研究倫理審査や博士論文公開審査における学生の発表内容や質疑応答の状況により評価する。

学修成果の評価は、アセスメント・チェックリストにより実施する。

大分大学 アセスメント・チェックリスト

学部・研究科	医学系研究科	学科・専攻・課程	博士課程医学専攻	コース		最終更新日	2020年10月13日
--------	--------	----------	----------	-----	--	-------	-------------

ディプロマ・ポリシー							
1	基礎・臨床医学，及び生命科学における深い学識と高度な情報収集能力・分析能力および研究技術を備えている。						
2	自らの研究歴あるいは臨床経験に基づいて，その学識・能力・技術を基盤に，自ら課題を見出し，それを解決・展開できる。						
3	自らの研究成果を客観的に分析し，目的と背景・研究方法・結果・考察，さらに今後の発展の可能性について発表し討議することができると共に，その成果を欧文論文として発表する総合的な情報発信能力を有する。						
4	科学的基盤に基づいて先端医療を理解又は実践することができる。						
5	実験室や調査フィールドあるいは臨床の場における実践的な経験に基づいた，医学者としての研究者倫理を有している。						
6	医学研究を通して人類の繁栄と福祉に貢献することができる。						

番号	実施状況	手法	名称	実施時期	実施頻度	対象	チェック内容・項目	対応 DP						評価者	実施責任者	結果の活用方法
								1	2	3	4	5	6			
1	実施中	報告会	中間発表会	9月	毎年	3年生	研究成果の進捗度	●	●	●	●	●	●	研究指導教員	研究指導教員	以後の学習・研究成果と課題を検討することに活用する
2	実施中	論文	論文審査会	7～8月	毎年	4年生	学習・研究成果の検証	●	●	●	●	●	●	主査・副査		研究指導を経て，自立して研究し得る能力を備えていると認められるか，明らかにする
3	実施中	質問紙	大学院研究倫理教育セミナー	12月	毎年	1年生	研究倫理に関するアンケート					●		博士課程小委員会委員長	研究科長	博士課程医学専攻生が学位論文を提出する際に、学位論文関連書類で本セミナーの受講証の提出は必須条件となっている